

令和5年12月11日
都市局公園緑地・景観課

令和4年 全国屋上・壁面緑化施工実績の調査結果について

令和4年には、約15.6haの屋上緑化、約4.4haの壁面緑化が新たに施工されました。

屋上緑化・壁面緑化は、都市におけるヒートアイランド現象の緩和、美しく潤いのある都市空間の形成、都市の脱炭素化等に寄与し、全国的に取り組みが進められています。

国土交通省では、平成12年から全国の屋上・壁面緑化の施工実績調査を行っており、この度、令和4年の調査結果をまとめました。

1. 調査結果(施工面積)

(1) 単年施工面積

令和4年に、屋上緑化は約15.6ha、壁面緑化は約4.4haが施工されました。

(2) 累計施工面積

調査を開始した平成12年から令和4年までの23年間※で、屋上緑化は約597ha、壁面緑化は約119haが施工されました。

※本調査は最大3年間遡った回答を依頼しているため、令和3年、令和4年データは暫定値であり、来年度以降の調査の結果、数値が変わる可能性があります。

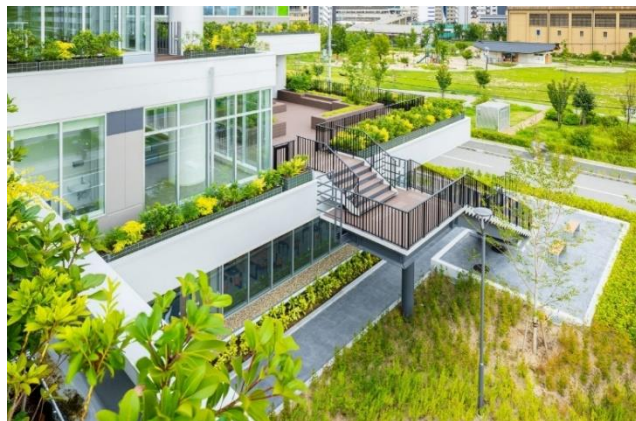
2. 近年の特徴的な傾向

用途にかかわらず、様々な建築物で、屋内・屋外との連続性や一体利用などを考慮した緑化などにより、利用者の交流の促進や、滞留空間としての魅力向上をはかる事例が見られます。

詳しくは「トピック」をご覧ください。

(参考)調査の概要

- ①調査方法：郵送によるアンケート調査
- ②調査対象企業：全国の造園建設会社や総合建設会社、屋上・壁面緑化関連資材メーカーなど 計554社
- ③回答回収状況：回収259社(回収率46.8%)
- ④調査対象期間：令和4年1月1日～令和4年12月31日



屋上緑化の例：川西市立総合医療センター

問い合わせ先：国土交通省 都市局 公園緑地・景観課 緑地環境室 野村、小野、後藤

TEL: 03-5253-8111 (内線32963,32965) 直通: 03-5253-8420

トピック

近年、用途にかかわらず、様々な建築物で、屋内・屋外との連続性や一体利用などを考慮した緑化などにより、利用者の交流の促進や、休憩・回遊空間としての魅力向上をはかる事例が見られます。その最新事例を紹介します。

地域医療の核となる病院づくりに多様な緑化を取り入れた事例

川西市立総合医療センター（兵庫県川西市）

公民連携の市立病院移転で「ガーデンホスピタル」を目指す

川西市立総合医療センターは、市立病院の移転計画に伴い整備された施設です。医療法人を指定管理者に迎え、同法人が運営する別の病院との統合により地域医療の再編を目指す公民連携の事業です。周辺の里山の景観や自然豊かな公園に隣接した立地を活かした「ガーデンホスピタル」をコンセプトとし、市民が安心と信頼を感じられる病院を目指しています。

公共工事では珍しい基本設計からのデザインビルド方式により設計から建設まで同一の企業により実施されています。



上空からみた、屋上庭園の配置

既設公園と一体的な屋内外空間を創出

病院に隣接して、地域の里山植生を再現した「キセラ川西せせらぎ公園」があります。2階の外来待合は病院の屋上庭園と大階段を介して公園へと繋がり、外来待合は木漏れ日が降り注ぐ里山のように、屋上庭園は居心地の良い室内のように、外構は公園の一部のようにデザインされ、公園と病院が一体となるデザインとしています。

豊かな自然環境と立地の特徴を活かし、公園につながることで誰もが入りやすく、地域の自然をモチーフとすることで地域の人に愛され、緑を感じる空間が患者さんの不安を和らげる、病院空間づくりを目指している事例です。

諸元

敷地面積	: 11,548㎡
建築面積	: 7,251㎡
緑化面積(屋上)	: 2,099㎡
階数	: 地上9階
完成時期	: 2022年



川西市立総合医療センター 全景
外階段からテラスへアクセスできる（手前）



屋上庭園から公園方面の眺め。一体的なデザインとなるよう、配慮されている。

隣接公園と一体的につながる外部テラス

屋内外に多様な壁面緑化や室内緑化を取り入れた事例

YANMAR TOKYO（ヤンマー東京） （東京都中央区）

商業フロアの吹き抜け空間を植物で彩る

YANMAR TOKYOは、JR東京駅八重洲口前に立地し、低層棟には商業施設が入るオフィスビルです。

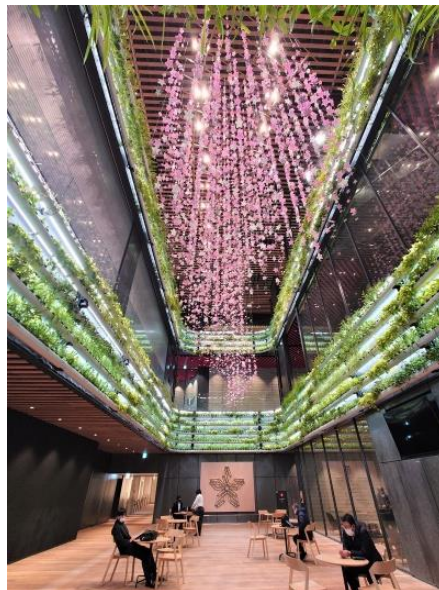
ビルは八重洲地下街から直結しており、アクセスの良さを活かして、地下1階は、2階までの3層吹き抜けとなった休憩スペースを中心に、商業施設や、農機具メーカーとして米の生育や米づくりの知恵・未来について触れられるギャラリーなどが設けられています。

屋内外での多様な緑化と生育への工夫

各種イベントの会場にもなる休憩スペースの空間は、外装の壁面緑化を踏襲したデザインの水耕栽培による緑化ルーバーが設置され、葉の形状が異なる10種類の草本種を用いてウェーブを描くように配置し「大地のうねり」を表現しています。

またルーバー毎に照明を設置し、室内空間での植物の育成に必要な明るさを確保しながら、時刻によって色の変化など空間の表情が変わることを狙った調光システムを採用しています。

東京駅前にありながら、誰もが利用できる空間に、企業の理念を調和させる取組みにみどりを積極的に取り入れた事例です。



地下1階から2階まで大きく吹き抜けた室内空間



ルーバーに設置された水耕栽培緑化システム



建物壁面の大規模緑化



諸元

敷地面積	: 1,484㎡
建築面積	: 1,360㎡
緑化面積(壁面)	: 2,555㎡
階数: 地上14階、地下3階	
完成時期	: 2022年

建物周囲に回遊性のある植栽空間を整備した公共施設の事例

大阪中之島美術館（大阪市北区）

美術館の建物周囲に回遊性のあるテラス、植栽を配置

大阪中之島美術館は、水都大阪のシンボルである中之島に位置し、19世紀後半から現代までの国内外の美術作品とデザインを収集している公立美術館です。大阪の魅力を世界に発信する施設として、また中之島のまちづくりに貢献する施設として、PFI法における公共施設等運営事業「コンセッション方式」を日本の美術館で初めて導入しました。

誰でも気軽に立ち寄ることができる屋内の「パッサージュ（遊歩空間）」を中心に、知識や経験が交わる「機会」を生み出す美術館として、その循環と活用を促進しています。

エントランス周辺の植栽により多様な利用に配慮

美術館が日常の場となるよう、積極的な緑化を行うと共に、来館者以外の休憩・滞在・屋外イベント・屋外展示などが可能な設えとし、大阪の新しい美術館を象徴するような計画としています。エントランス周辺は落葉樹と常緑樹によって自然の風景を意識した立体的な植栽となっているほか、自由にくつろぐことができる広々とした芝生広場も設置されており、緑に囲まれた施設になっています。



美術館全景



2階テラスの植栽



2階の芝生広場

諸元

敷地面積	: 12,874㎡
建築面積	: 6,681㎡
緑化面積(屋上)	: 1,431㎡
階数	: 地上5階
完成時期	: 2021年

